

教材教具名 おばけと遊ぼう (「めっきらもっきらどおんどん」)	教科 (国語)	
------------------------------------	-----------	--

教材教具写真



「紙コップロケット」

「ボール」

「お宝マラカス」

(お宝マラカスは、100均で購入したプラスチックおろし金に鈴やビー玉を入れて製作した)

教材教具の概略(ねらいと使い方) ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい : 遊びたいおもちゃを3つの中から1つ選ぶことができるようになる。
・おもちゃへの興味を通じて、「あそぼ」の誘いかけに対し発声や挙手で応えることができるようになる。
- 2 発達段階: 模倣・指さしを獲得する時期・話し言葉を獲得する時期
- 3 使い方: ①「めっきらもっきらどおんどん」の読み聞かせの中で、「あそぼ」「いいよ」のやりとりを楽しむ。
②3つの机におもちゃを1つずつ置いて提示し、一人ずつ、机の前に立つ・指さすなどの方法で遊びたいおばけ(おもちゃ)を選ぶ。
③おばけのお面をつけた教師の「あそぼ」という誘いかけに対し、発声や手を挙げることで「いいよ」の意思を伝える。
④おもちゃで遊ぶ。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

児童はおもちゃに興味をもち、積極的におもちゃの置いてある机の前に立って選んでいた。「あそぼ」「いいよ」のやりとりを読み聞かせの中に取り入れたことにより、教師がお面をつけて実際にやりとりをする場面でも、抵抗なく「イー」「イーヨ」と返事をしたり手と手を合わせたりすることで遊びたい気持ちを表すことができていた。

はじめはロケットとマラカスに加え、紐を引っ張ると上に上っていくおもちゃの3つにしていたが、一人の児童が興味をもちにくかったため、その児童が大好きなボールに教材を変更した。その後は興味をもちにくかった児童もボールで遊びたい気持ちを表すようになり、タッチでのやりとりをした後楽しく遊ぶことができるようになった。教材は児童の興味や実態に合わせる必要があると強く感じた。